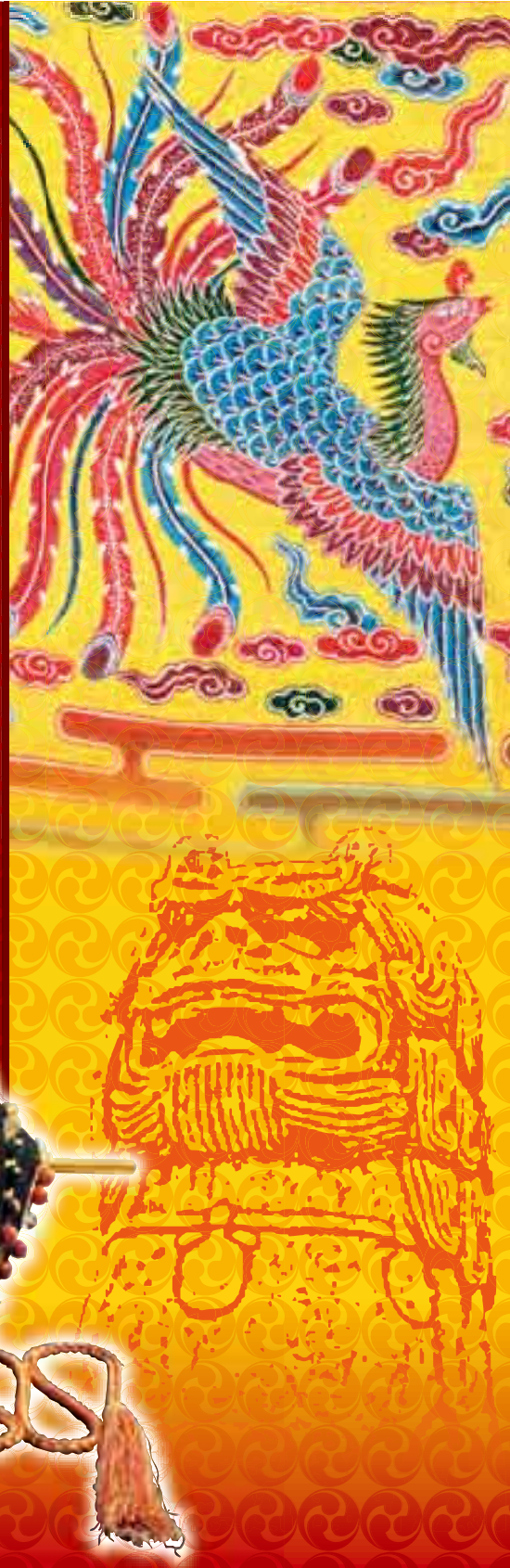
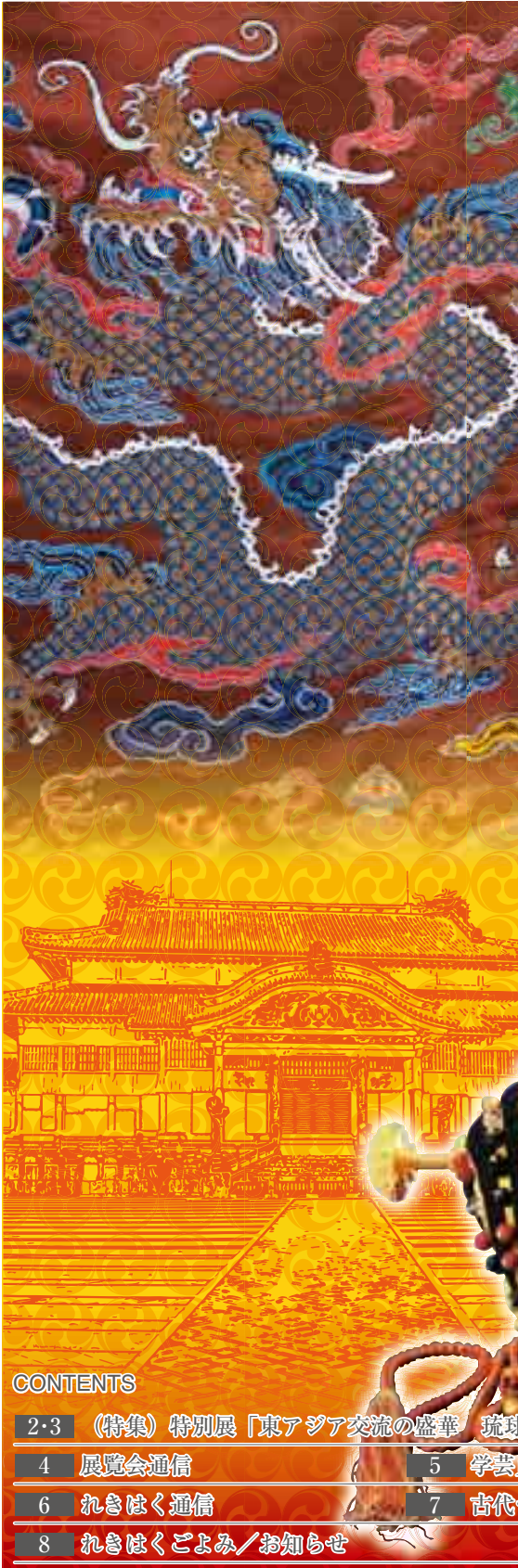


島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2015.JUN



特別展
東アジア交流の盛華
琉球王国
2015年7月22日(水)～8月31日(月)



CONTENTS

- | | |
|-----|--------------------------|
| 2・3 | (特集) 特別展「東アジア交流の盛華 琉球王国」 |
| 4 | 展覧会通信 |
| 5 | 学芸員通信 |
| 6 | れきほく通信 |
| 7 | 古代セン通信 |
| 8 | れきほくごよみ/お知らせ |

国宝 玉冠 那覇市歴史博物館
展覧期間: 8月5日～8月17日

特別展

「東アジア交流の盛華 琉球王国」

開催期間：平成27年7月22日(水)～8月31日(月) 休館日8月18日(火)

開催場所：古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間：9:00～18:00

7月22日(水)は企画展開会式のため特別展示室のみ10:00開場となります。

主 催：島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

※会期中展示替えがございますので、ご注意ください。

中国大陸から日本列島へと数々の島々からなる琉球列島は、古くからそれぞれの地域独自の風土に根ざした生活文化を残しつつ、地理的環境を活かして東アジア、東南アジアとの交流を通して、独自の文化圏を形成してきました。

わけでも本土の中世の頃にはほぼ該当する古琉球時代の中頃には、中国への進貢を介した交易が活発となるなかで統一が進められ、王朝が成立した第一尚氏王統から第二尚家王統初期にかけては、東アジア諸国と東南アジア諸国を結ぶ壮大なる貿易によって、「万国の津梁(国際貿易センター)」の地位を築きました。

この特別展では、尚家に伝来した数々の至宝を中心に、中国を中心とした東アジアとの交流を通じて築かれた国際国家・琉球王国の様相をたどるとともに、琉球王国に生まれ、今や国内外で高い評価を受けている、壺屋焼や紅型など、沖縄の優れた美術工芸の数々をご紹介します。

【プロローグ】

ゴホウラ貝や龍蛇をとおして、悠久の昔から琉球と出雲地域と交流の接点があったことを紹介します。

【第1章 大交易時代】

中国への進貢を契機として三山が統一され、東アジアから東南アジアに及ぶ中継貿易を展開するにいたったことや、第二尚氏時代に確立した中国への進貢船派遣・冊封使の応接の様相を紹介します。



進貢船の図 沖縄県立博物館・美術館所蔵

【第2章 琉球王朝と神仏】

琉球文化圏では、女性司祭が各地域独自の祭司を担っていること、第二尚氏王朝下で王の姉妹が就任する開得大君を頂点として組織化されたことや、英祖王統時代に伝来した仏教が王朝の庇護を受けて栄えたことを紹介します。



木造白象座 沖縄県立博物館・美術館所蔵



(国宝)玉冠 那覇市歴史博物館所蔵
展示:8/5～8/17

【第3章 琉球王国尚家の至宝】

一六〇九年の島津侵攻以降、琉球は薩摩藩を通じて日本に従属を強いられた一方で、中国との冊封関係を維持することでなお独立国としての名分を保持しました。尚家に伝来した美術工芸の至宝を紹介します。



那覇市立壺屋焼物博物館所蔵



絹黄色地枝垂桜流水菊文様衣装
沖縄県立博物館・美術館所蔵
城間栄喜作 展示:8/11～8/31

【第4章 琉球の美】

琉球王府は貝摺奉行を設けて美術工芸の振興に尽くし、漆器、紅型など多方面にわたって沖縄独特の優れた作品を生み出しました。こうした基盤のなかから制作された美術工芸の数々を紹介します。

【第5章 美の復興】

近代の廃藩置県、第二次世界大戦などにより沖縄は翻弄され、壊滅的な被害を受けながらも、優れた伝統工芸のわざは創造的に継承され、国内外で高く評価されていることを紹介します。

担当学芸員による見どころ紹介



木造獅子座
沖縄県立博物館・美術館所蔵

首里城の北に臨済宗の寺院として建立された円覚寺は、琉球尚王家の宗廟として栄えました。先の沖縄戦で壊滅状態となり建物だけでなく仏像や仏具も灰燼に帰してしまいました。これは文殊菩薩像を乗せていた獅子座です。ばらばらになっていたものを地元の方が拾い集め、沖縄県立博物館・美術館で保管されていましたが、近年大規模な修復がされ、往時の姿を取り戻しました。沖縄県内でもあまり公開されておらず、県外では初公開です。沖縄県の仏教美術は沖縄戦でほとんど残っていません。この獅子座の迫力ある姿を見ると、大いに栄えたであろう円覚寺の様子が目に浮かびます。



(国宝)玉冠(たまのおかんむり)
那覇市歴史博物館所蔵

このたびの展覧会では、国宝「琉球国王尚家関係資料」の中から代表的な美術工芸品をご覧ください。

明治時代の琉球処分により、琉球王国は日本国の一県となり、王家である尚家は東京への居住を命じられます。その後の沖縄戦により、琉球王国の文化財は多くが失われてしまいますが、一部は東京の尚家に遺されていたため難を逃れました。これが那覇市に寄贈され、国宝になったのです。「玉冠」は、琉球国王の正装の冠です。黒地に金糸の筋を縫い、そこにさまざまな宝玉を留め、金の簪をさした豪華な造りが特徴です。8月5日から17日までの期間限定の展示ですので、お見逃しなく。

企画展関連講座

■関連講座

平成27年7月25日(土) 13:30~15:00

「日本の異国・琉球王国の人・風土・歴史」

講師：安里進氏（沖縄県立博物館・美術館館長）

■関連講座

平成27年8月8日(土) 13:30~15:00

「海域史から見た琉球王国」

講師：真栄平房昭氏（琉球大学教育学部教授）

【関連講座共通】

各定員：100名 無料（要申込）

場所：古代出雲歴史博物館 講義室

申込方法：電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください。

沖縄音楽ミニコンサート

沖縄の古典音楽・琉球民謡・琉球舞踊のミニコンサート

演者：金城裕幸（組踊道具・衣裳製作修理技術保存会副会長、琉球古典音楽野村流保存会・歌三味線師範）

平成27年8月1日(土) 13:00~14:00

踊り手 金城小百合（玉城流敏風利美の会教師）・優達・かりの・麗璃

場所：古代出雲歴史博物館 エントランスホール 無料

企画展関連イベント

■「粘土でシーサーをつくろう」

平成27年7月26日(日) 10:00~15:00

場所：古代出雲歴史博物館 体験工房 随時受付 参加費：500円

■「藍染でオリジナルTシャツをつくろう」

平成27年8月23日(日) 午前の部10:00~12:00／午後の部13:30~15:30

場所：古代出雲歴史博物館 講義室 定員：各20名（要申込） 参加費：1,500円

■「沖縄の楽器 三線を弾いてみよう」

沖縄民謡や三線の解説と演奏体験

平成27年8月23日(日) 13:30~15:00

場所：古代出雲歴史博物館 講義室 定員：10名（要申込） 参加費：無料

■「沖縄のお菓子づくり体験」

沖縄の昔懐かしいお菓子「ちんぴん」「ぼーぼー」をつくります。

平成27年8月29日(土) 13:30~15:00

場所：古代出雲歴史博物館 体験工房 定員：20名（要申込） 参加費：500円

【申込方法】 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください。

企画展の紹介

企画展

「百八十神坐す出雲 - 古代社会を支えた神祭り -」

開催期間：平成27年10月9日(金)～11月29日(日) 休館日 10月20日(火)・11月17日(火)

開催場所：古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間：9:00～18:00 (11月は17:00閉館)

●百八十神とは？

『古事記』の国譲り段で大国主神は葦原中国を献げた後、「私の子等“百八十神”のなかに背く者はいないでしょう」と発言します。この“百八十”は一般に数が多い表現と理解されていますが、一方では『日本書紀』が大国主神の子を「全部で百八十一神」と記していることが注目されます。これらが編さんされた当時の都では、大国主神の御子神＝約180柱という具体的な数字が意識されていた可能性もあるでしょう。そして『出雲国風土記』を読むと、8世紀の出雲国に存在した官社（国家が把握する神社）の数はなんと184社。やはり百八十に近い数です。果たしてこれは単なる偶然でしょうか？

●展示のテーマ

今回の企画展では、古代社会において、現代の私たちが想像できないほど盛んにおこなわれていた神祭りの意義、そして成立期の神社の実態にせまります。奈良時代の出雲国にはなぜ184社もの神社が祭られていたのか？それはどのような姿、形だったのか？そもそも古代に生きた人々にとって、神祭りとは何だったのか？

実は、島根県古代文化センターではこうしたテーマを3年間、研究してきました。その成果の一端を、展示を通じてわかりやすく皆様にお伝えさせていただこうと現在準備を進めています。

●主な展示品

各地の古社に伝わる神宝や境内出土品をはじめ、古代の神社の実態をビジュアルに示す絵図や建築資料、そして遺跡から発掘された神への捧げ物等を多数展示いたします。それぞれの資料が歴史的に意義深いのはもちろん、造形としても優れた見応えのある品々ばかりです。どうかご期待ください。



重要文化財
鳥取県谷畑遺跡出土祭祀遺物
古墳時代の神祭りで捧げられた、玉や粘土の品々。人や動物をかたどった素朴な造形が興味深い。 倉吉博物館蔵

特集展

「出雲に米作りが伝わった 西川津遺跡と出雲の弥生遺跡から」

開催期間：平成27年12月18日(金)～2月14日(日) 休館日 1月19日(火)

開催場所：古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間：9:00～17:00

私たちが主食としている米、それは日本列島にもともとあった植物ではなく、弥生時代に栽培が始められた植物です。弥生時代とは、日本列島において水田で米作りを本格的に始めた時代をいいます。出雲における弥生時代の始まりは、単に米作りが出雲に伝わったという意味にとどまりませんでした。弥生時代の新しい要素には、籾などを貯める壺形土器の出現や田を耕すための鋤や鍬などの農耕具、農耕具を作るための磨製石器の出現、青銅器や鉄器などの金属器の使用などを挙げることができます。弥生時代は縄文時代以来の伝統的な文化要素と融合しながら社会を変えてゆき、青銅器の使用、四隅突出型埴輪墓の築造などに至る特徴ある文化を生み出しました。

今回の展示では出雲に米作りが伝わった弥生時代の始まりに焦点を当て、松江市西川津遺跡など弥生時代の遺跡から見つかった資料を中心に展示します。特に、米作りが始まったことによって、土器や石器などの道具や祭祀が大きく変わったことに焦点をあてます。

【展示構成】

プロローグ：人と米の出会い、第1章：米作りが伝わったところの出雲、第2章：米作りを伝えた人々、第3章：弥生の暮らしと「祈り」、第4章：陸と海を越えて－弥生時代前期の交流、エピローグ



出雲に米作りを伝えた弥生人の顔
(西川津遺跡・島根県埋蔵文化財調査センター蔵)

明治日本の産業革命遺産

大板山たたら製鉄遺跡と石見のたたら

古代出雲歴史博物館 交流・普及課長 角田 徳 幸

国連教育科学機関（ユネスコ）の諮問機関であるイコモスは、九州・山口を中心とした8県が世界遺産登録を目指している「明治日本の産業革命遺産」を世界遺産に登録するよう世界遺産委員会に勧告しました。「明治日本の産業革命遺産」は、非西洋地域において近代化の先駆けをなした日本の造船・製鉄・石炭産業などを象徴する産業遺産の保存・活用を図ろうとするものですが、その中には山口県萩市の史跡大板山たたら製鉄遺跡が含まれています。わが国古来の製鉄法であるたたら製鉄の遺跡が「明治日本の産業革命遺産」とされているのは、1856（安政3）年に長州藩が建造した洋式軍艦「丙辰丸」^{へいしんまる}の材料として生産した鉄を供給していたためです。世界遺産登録で注目を集める大板山たたら製鉄遺跡ですが、その経営や技術は石見のたたら製鉄に支えられていました。

大板山たたらは、宝暦年間（1751～1763年）に開設され、幕末期まで3度にわたり断続的に稼働しています。最初の操業は長門人の共同経営で、津和野藩青原村（津和野町）の紙屋伊三郎が派遣した技術者を迎えて8年ほど存続しました。2回目の操業は文化9（1812）年～文政5（1822）年の10年間です。浜田領鍋石村（浜田市）の江尾小右衛門が同村にあった一ノ瀬たたらを移しており、経営・操業とも石見人でした。原料の砂鉄は、津和野領井野村（浜田市）の山砂鉄を三隅湊（浜田市）から奈古浦（山口県阿武町）まで船で運んでいました。

3回目の操業は、安政2（1855）年に始まり、経営者は大森天領渡津村（江津市）の高原竹五郎でした。翌年から生産された鉄はすべて長州藩が買い上げており、洋式軍艦の建造に碇や船具などの材料として鉄を供給したのはこの時期です。大板山たたら製鉄遺跡は、発掘調査によって幕末期の高殿（製鉄工場）が明らかになっていますが、建物の平面形が長方形であること、屋根の一部が瓦葺きであること、小鉄町（砂鉄置場）^{こがねまち}に砂鉄焙焼炉をもつことなど、江津市周辺のたたらに特徴的な構造でした。また、たたら場の墓地には「雲州仁多郡矢二字村（奥出雲町）」、「雲州赤名村（飯南町）」、「備後国三谷郡矢井村（広島県三次市）」と刻まれた墓碑をもつ墓があり、出雲や備後からも製鉄技術者などが集まっていたようです。

大板山たたら製鉄遺跡は、日本の近代化が伝統的な在来技術を基礎に成立したことを示す産業遺産と言えます。



国史跡 大板山たたら製鉄遺跡(萩市提供)

幕末期の山内と呼ばれる製鉄場が保存整備されている。

ワークショップ

山陰古墳研究の黎明

－近代考古学研究の父・英国人ガウランドの足跡－

明治時代、西洋諸国から最先端の学問や文化、そして技術を有した多くのお雇い外国人が日本政府に招かれました。その一人であったウイリアム・ガウランドは、造幣局で冶金の専門技師として勤めながら、全国100カ所以上にのぼる古墳を調査しました。また、多くの測量図や写真を記録し、英国ロンドンの大英博物館には、考古資料としての「ガウランド・コレクション」が収められています。多くが展示され、入館する世界中の人の目に触れています。その中には、出雲の資料も含まれています。

今回のワークショップでは、山陰古墳研究の先駆けとなったウイリアム・ガウランドの出雲踏査の足跡をたどりながら、一瀬和夫氏（京都橘大学）をリーダーとしたGowland Project（2011～2015年度）の研究成果を踏まえ、急速に近代化を遂げた明治期における出雲の古墳研究史を考えてみたいと思います。

【実施予定日】9月19日（土） 13:00～17:00

【実施主体】主催：Gowland Project（リーダー：一瀬和夫京都橘大学文学部教授）

共催：島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター・出雲弥生の森博物館

後援：島根考古学会

- 【次第】13:00 開会挨拶 黒崎寿政（島根県立古代出雲歴史博物館館長）
 13:05～14:20 基調講演 「出雲におけるウイリアム・ガウランドの足跡」 渡邊貞幸（出雲弥生の森博物館館長）
 （休憩）
 14:30～15:00 報告1：「ロンドン古物学協会のノート」 竹村亮仁（京都府埋蔵文化財調査研究センター）
 15:00～15:30 報告2：「ガウランドの石室調査の足跡」 富山直人（神戸市教育委員会）
 （休憩）
 15:40～16:10 報告3：「ガウランド・コレクションの土器」 西村秀子（大手前大学史学研究所）
 16:10～17:00 対話：「パブリック・アーケオロギーからみた出雲でのガウランド」
 一瀬和夫（京都橘大学文学部教授）、菱田哲郎（京都府立大学文学教授）、会場の参加者

場 所：古代出雲歴史博物館講義室または体験工房 定員：100名

申込方法：電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください。

歴博入門講座

「いまさら聞けない島根の歴史」（連続4回シリーズ）

島根の歴史、本当は興味があるけど・・・、「むずかしい話はめんどくさい。」「いまさら初歩的なことを尋ねるのも恥ずかしい。」と思っている方を対象にした入門講座です。大変申し訳ありませんが、歴史通の方はご遠慮下さい。学芸員が簡潔かつ丁寧に、島根の歴史を解説します。

4回連続受講者の方には、館長より修了証と記念品を進呈します。

【第1回】

11月21日（土） 10:30～11:40 ※10:30～10:40は開講式があります。

「本当に知っていますか？出雲大社の歴史」 講師：当館専門学芸員 岡 宏三

【第2回】

12月19日（土） 10:30～11:30分

「『出雲国風土記』って、聞いたことありますか？」 講師：当館学芸員 吉永大志

【第3回】

1月16日（土） 10:30～11:30分

「銅鐸とはいったい何なのか！」 講師：当館専門学芸員 中川 寧

【第4回】

2月20日（土） 10:30～11:40分 ※11:30～11:40は閉講式があります。

「徹底解剖！古墳10の疑問」 講師：当館専門学芸員 仁木 聡

※講座のタイトルは予告なく変更する場合があります。

場 所：古代出雲歴史博物館講義室または体験工房 定 員：各回30名

申込方法：電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください。

島根県古代文化センターは今年もさまざまな講座を開催します！

古代文化センターは島根県の歴史文化の調査・研究を進めるとともに、その研究成果や県の歴史文化の魅力を県民や国民の皆さまにわかりやすく発信する事業を毎年行っています。ここでは今年度古代文化センターが計画している県内で開催するさまざまな講座を紹介します。

■出雲地方

全国で唯一ほぼ完本として伝わる『出雲国風土記』の価値と魅力を県民のみなさまにわかりやすく伝えるために、「出雲国風土記連続講座」を平成25年度から開催しています。昨年度は毎回200～300名もの方にご参加いただきました。みなさん『出雲国風土記』の最新の研究成果に熱心に耳を傾けていました。

今年度は7月からほぼ隔月で全4回開催する予定です。講師には古代史・上代文学・考古学研究の第一人者をお願いし、『出雲国風土記』をさまざまな角度から読み解いていきます。現在受講申し込み受付中ですので、ぜひご参加ください。



昨年度の出雲国風土記連続講座の様子

■石見地方

古代文化センターは、石見各地の特色ある歴史文化に関する巡回講座を平成26年度から開催しています。昨年度は浜田市を会場として「石見神楽」「浜田地震」など当地にゆかりの深いテーマで開催しました。今年度は大田市（4月29日開催）・邑南町・益田市で開催する計画です。詳しくはチラシや古代文化センターFacebookなどでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

■隠岐地方

隠岐地方では、隠岐四町村を巡りながらその土地にちなんだ歴史を解説する「隠岐国巡回講座」を行っています。隠岐の歴史は島嶼環境という特殊な自然・環境の中で育まれ、出雲や石見とも異なる独特の文化が営まれてきました。平成25年には、自然と歴史が共存する地域として世界ジオパークに認定されています。皆様も隠岐地方のユニークで深みのある歴史に触れてみませんか。

古代文化センター 平成27年度 島根県内開催講座一覧

【出雲地方】 ※出雲国風土記連続講座の詳細や申し込み方法は、下記お問い合わせ先HPをご覧ください。

出雲国 風土記 連続講座	7月12日(日)	「ヤマト王権と出雲玉作り」	菊地照夫氏 (法政大学文学部講師)	松江市 松江テルサ ※現在受講申し込み 受付中
	9月26日(土)	「島根半島の神話」	山村桃子氏 (島根県立大学短期大学部講師)	
	11月29日(日) (特別講座)	「前方後円墳終末期の 二つの出雲」	白石太一郎氏 (大阪府立近つ飛鳥博物館長)	
	2月14日(日)	「古代出雲の祭祀世界」	松尾充晶 (島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員)	

【石見地方】

石見国 巡回講座	8月30日(日)	タイトル未定	安藤邦廣氏 (筑波大学名誉教授)	邑南町旧山崎家住宅 (予定)
	12月13日(日)	「遺跡からみた中世の美都」	田中義昭氏 (島根大学元教授)	益田市美都町 ふれあいホールみと

【隠岐地方】 ※その他、隠岐の島町での講座を予定(日時、内容等未定)。詳しくは下記までお問い合わせください。

隠岐国 巡回講座	6月27日(土)	「神話のハジマリ」	内田律雄氏 (島根県埋蔵文化財調査センター職員)	知夫村 知夫島内
	8月8日(土)	「奈良の都と海士の木簡(仮)」	市 大樹氏 (大阪大学准教授)	海士町 隠岐神社
	9月5日(土)	「中世芸能史における 美田八幡宮の田楽」	山路興造氏 (島根県文化財保護審議会長、民俗芸能学会理事)	西ノ島町 至誠館

《お問い合わせ先》

島根県古代文化センター

TEL 0852-22-6727 FAX 0852-22-6728 E-mail: kodai@pref.shimane.lg.jp

HP: <http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkazai/kodaisen.html> Facebookもやっています。

今すぐチェック！→



イベントのお知らせ

◆夏休みイベント

■夏の体験学「れきはく夏まつり」

【日時】 7月26日(日) 10:00 ~ 15:00

【場所】 古代出雲歴史博物館 体験工房周辺

【内容】

- 「粘土でシーサーをつくろう」
随時受付 材料費：500円
- 藍染体験「藍染でオリジナルハンカチをつくろう」
100枚限定限定 材料費：300円
- 出張博物館 県内外の博物館が大集合
- キッズわくわく体験 体験無料
- パスポート会員Wポイント



◆夏休み子ども考古学

■8月2日(日) 『夏休み子ども考古学教室Ⅰ』

対象：小学校4年生～6年生

「古墳の立体模型を作ろう」 10:00 ~ 16:00

10:00 ~ 10:30 《説明》古墳とは？

10:30 ~ 12:00 《測量体験》古墳の図を作ってみよう

12:00 ~ 13:00 昼食

13:00 ~ 16:00 《模型製作》古墳の立体模型を作ってみよう

■8月9日(日) 『夏休み子ども考古学教室Ⅱ』

対象：小学校4年生～6年生

「古代文様の色紙を作ろう」 10:00 ~ 12:00

10:00 ~ 10:30 《説明》拓本のとり方

10:30 ~ 12:00 《拓本体験》古代瓦の色紙を作ろう

【場 所】 古代出雲歴史博物館 体験工房

【参加費】 無料

【定 員】 各15名 保護者同伴可

【申込み】 (事前申込み) 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください

※詳しくはお問い合わせください。

お知らせ

カフェ通信

「古墳ゼリー2015」

昨年、企画展関連の限定メニューでご提供させていただいた人気の「古墳ゼリー」が、夏休み限定で帰ってきます。まだ、食べていない方も、食べたことのある方も、この機会にぜひご賞味ください。

さらに、人気の「ぜんざい」に新メニューが・・・これからの暑い夏に向けて冷やっと涼しい「冷やし出雲ぜんざい」のに変わります。こちらは9月末頃までとなります。

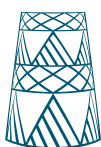
そして、特別展「琉球王国」開催期間の限定メニューも登場します。お楽しみに！



ショップ通信

特別展「琉球王国」の図録はもちろん、関連グッズなど琉球（沖縄）に関する様々な商品を準備しています。観覧記念にぜひショップにもお立ち寄りください。

発行／平成27年6月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00~18:00(11月~2月は、9:00~17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん